

特別寄稿

①

1月17日付一面から

~~~~~

「官民連携の  
実践と促進」である。

多くの中小規模水道にお  
ける技術職員は、絶対的な  
人数が少なく、多くの業務  
を兼務しているため、日常  
業務だけで手一杯となり、  
将来を見据えたレジジョンや  
更新計画などの策定が必要  
なことを認識していな

ら、手が付けられないとい  
う重圧感や不安感、そして  
過度なストレスやシレンマ  
を感じつつ、日々寡黙に水  
じょうを行っている。

さらに最近では、先ほども述べたとおり、短い人事サイクルから水道経験年数が浅くなってきた。そのため、このような憂鬱な気持ちをも持つことができな

るためには、熟練した高い技術力とノウハウが必要となる。

い、考えられないという極めて深刻な事態に陥っていることを首長の皆さまはご存知だろうか。

これらの問題を自力で解決できるならば問題ないが、多くの中小都市におい

このことを改善させる効果に、複数年での包括的業務委託や水道法に基づく第三者委託という手法を活用した「官民連携」がある。

ただし、首長の皆さまには、次の二つを注意していただ

るためには、熟練した高い技術力とノウハウが必要となる。

## 「官民連携」を特効薬に

拜啓 中小都市の「首長」の皆さまへ

ては、退職者数よりも著しく少ない新規採用の方針を取られているため、事はなお一層深刻化している。

これは水道は、大きな装置産業でもあることから技術者が必要である。特に、老朽化した施設をオペレーターしながらサービス提供す

置るためには、熟練した高い技術力とノウハウが必要となる。

このことを改善させる効果に、複数年での包括的業務委託や水道法に基づく第三者委託という手法を活用した「官民連携」がある。

石狩市建設水道部参事 清野 馨

もサービス水準が向上することに對する適正な対価となると、むしろ今よりも割高になると考えるべきである。そのことを少しでも抑制するには、スケールメリットが大きなよう事業統合や近隣都市との共同委託などを模索すべきであろう。

責任が事業者側にあることを踏まえると、モニタリング要員として複数人数の技術職員を継続的に育成していく必要がある。

首長の皆さまは、以上の二点に十分に注意いただき、速やかに「官民連携」を実践し促進させるべきである。

おわりに

世界に例のない人の高齢化、膨大な国債などの重荷を背負い、大変革なしに立ち行かないのが、いまの日本の実情である。仮に、何もできないリーダーが居座るならば、貴重な時間の浪費のみで、わが国の国益は損なわれる。

このことは中小都市も同じである。それだけに首長の責任は極めて重い。

第二次世界大戦末期、ハリ・トルマン大統領の執務机には、「責任はここでござる」と書かれた木製プレートを置いていた。

現在の水道は、首長の皆さまが考えておられる以上に危機的な状況である。今すぐにはわがまちの水道を再点検願いたい。そして最後に、首長の見たくない、知りたくない現実を突き付けられたならば、その不都合な真実を謙虚に認め、「責任はここでござる」と覚悟し、可及的速やかに先の三つの英断を下していただいた上で、強力なリーダーシップを発揮願いたいのである。

今一度ご安心ください。水を守るといふ義務と責任ある水道職員は、そのような覚悟を持った首長に必ず共鳴する。そして大死一番、狂爛を既倒に廻らし、その強い信念のもと全身全霊で皆さまを支える。

このような取り組みが全国津々浦々で行なわれ、その尊い一滴一葉の志こそが、いまの日本を立て直す底力となる源泉なのではないだろうか。

そして、首長の皆さまのこのような英断が例え「天知ル地知ル、我知ル人知ラナイ」になろうとも、必ずや皆さまを歴史が国土無双と評価すると、固く信ずるところなのである。